

られた(図2-4)。なお、当該キノコについては、同心円状の環紋および放射状のシワがある点、成長中の菌糸が白い点、縁部がやや分厚い点、裏面の管孔は細かいが肉眼的である点から、クジラタケである可能性が高いと判断した。

末筆ながら、本種の文献記録をご教示くださり、また同定いただいた生川展行氏、クジラタケについてご教示くださった大阪市立自然史博物館の佐久間大輔氏、標本写真を撮影くださった齋田康彦氏、情報を下さった安藤真人氏に厚く御礼申し上げます。



図2. クジラタケ(推定)に集まったアカチビオオキノコ。



図3. 本種が集まっていたクジラタケ(推定。右下および左上に本種がいる)。



図4. 採集地の環境。

引用文献

- Nakane, T. 1966. New or little known Coleoptera from Japan and its adjacent regions, XXIV. *Fragmenta Coleopterologica*, (16): 64-66, 2 figs.
- 生川展行, 2004. アカチビオオキノコムシについて. 比和科学博物館研究報告, (43): 91-94, pl.1.
- 生川展行・細川浩司, 2014. 興味深いヒラタムシ上科およびゴミムシダマシ上科の記録. さやばねニューシリーズ, (14): 22-25.
- 小田正明, 2019. 鹿児島県稲尾岳山麓で採集した甲虫類 III. *KORASANA*, (91): 117-124.

(矢崎耀一 388-8007 長野市篠ノ井布施高田

652-1-303)

【短報】沖縄県渡名喜島におけるヒメヤマトケシマグソコガネの記録



図1. 採集されたヒメヤマトケシマグソコガネ。

沖縄県渡名喜島は沖縄本島の北西約60kmの海上に位置する小さな有人島(面積: 3.58 km²)である。同島におけるコガネムシ類の調査研究はこれまでに数回行われており、14種の生息が確認されている(藤岡, 2001; 岡島・荒谷, 2012; 井上, 2013; 金子・吉武, 2019; Kaneko & Shigetoh, 2019)。今回、2018年夏の採集調査

によって得られた標本群の中から、渡名喜島初記録と思われるヒメヤマトケシマグソコガネ *Platytomus yadai* (Ochi, Kawahara & Inagaki, 2006) (図1)を確認したためここに報告する。

ヒメヤマトケシマグソコガネは Ochi *et al.* (2006) の記載時に多くの個体が確認されたものの、以降の採集例が小林(2016)の一例のみしか記録されていない稀な種である。恩納村(沖縄県沖縄島)の海岸にて忽然と発生が確認されたことから、米軍基地などによる物資の搬入に伴い移入した可能性が示唆される一方で、発生期間が数日と極めて短いために、もとより生息はしていたが発見には至らなかった可能性も示唆されている(越智, 2012)。大量の個体が群翔し、灯火に飛来することが越智(2012)にて言及されており、強い走行性を有することが明らかとなっている。

1 ex., ていだ広場付近, 18. VII. 2018, 金子採集・保管(篩採集).

国内からは沖縄島(恩納村, 国頭村奥間), 海外においてはカタールにて生息が確認されている(越智, 2012; Bezdeck *et al.*, 2016; 小林, 2016). 渡名喜島からの記録は今回が初となる. 本個体は海岸沿いの砂地に自生するグンバイヒルガオの根際の砂を篩うことにより採集された(図2). この時, 多数のサキシマケシマグソコガネ *Psammodius kobayashii* Nomura, 1973 (46 exs.) とタイケシマグソコガネ *Rakovicius coreanus* (Kim, 1980) (10 exs.) も同時に採集されている. 渡名喜島における分布は船の往来による沖縄島からの移入が示唆されたが, 既知の生息地と港の間に大きな隔りがあることに加え, 港周辺には生息に好適な環境が存在しないことから, それは考えづらい. 本種の分布様式には未だ不明な点が残されているため, 更なる記録の蓄積が望まれる.

文末ながら, 採集調査に同行すると共に, 採集風景の写真を提供していただいた大島千幸氏に感謝の意を述べる. また, 本種の同定にご助力いただいた益本仁雄氏, 木内信氏に心より御礼申し上げる.



図2. 採集地の環境(大島千幸撮影).

引用文献

- Bezděk, A., M. Dellacasa, G. Dellacasa, D. Král, M. Rakovič, S. Ziani, D. Ahrens, T. Branco, C. Zorn, & F.-T. Krell, 2016. Scarabaeidae. Pp. 97–412. In Löbl, I., & D. Löbl (eds.), Catalogue of Palaearctic Coleoptera, 3. xxviii + 983 pp. Brill, Leiden.
- 藤岡昌介, 2001. 日本産コガネムシ上科総目録. 293 pp. コガネムシ研究会, 東京.
- 井上暁生, 2013. 久米島および渡名喜島のケバコフキコガネについて. 鯉角通信, (26) : 16–17.
- Kaneko, N. & H. Shigetoh, 2019. Distributional records of scarabaeid beetles (Coleoptera, Scarabaeidae) from Tonaki-jima Is., the Okinawa Isls., Southwestern Japan. Elytra, New Se-

- ries, Tokyo, 9: 47–53.
- 金子直樹・吉武 啓, 2019. 沖縄県渡名喜島からのフチトリアツバコガネの記録. さやばねニューシリーズ, (33) : 57–58.
- 小林修司, 2016. 砂浜海岸の砂篩でヒメヤマトケシマグソコガネ採集. 鯉角通信, (33) : 76–77.
- Ochi, T., M. Kawahara, & M. Inagaki, 2006. Taxonomic notes on some Japanese coprophagous lamellicorn beetles (Coleoptera, Scarabaeoidea) VII. Description of two new taxa of Aphodiinae. Kogane, Tokyo, (7) : 31–36.
- 越智輝雄, 2012. ヒメヤマトケシマグソコガネ属. Pp. 214. 岡島秀治・荒谷邦雄(監修) 日本産コガネムシ上科標準図鑑, 444 pp., 学研, 東京.
- 岡島秀治・荒谷邦雄, 2012. 日本産コガネムシ上科標準図鑑. 444 pp., 学研, 東京.

(金子直樹 243–0034 厚木市船子 1737
東京農業大学昆虫学研究室)

【短報】大津波後に再確認された宮城県名取川河口からのギョウトクコムズギワゴミムシの記録

ギョウトクコムズギワゴミムシ *Paratachys gyotokuensis gyotokuensis* (Tanaka, 1956) は, 千葉県行徳の江戸川河口域から記載されたオサムシ科の微小甲虫である. 河口部や湾内干潟の汽水域にみられる塩性湿地に生息する種で, 国内では本州(北限は宮城県名取川), 四国(田中・山崎, 1972; 森田, 1985), 九州(西田, 1998) から見つかっている. 国外からは, 別亜種が北朝鮮の大同江の河口部から知られる(Pawlowski, 1974).

全国的にも生息確認地が少なく, 護岸工事, 海岸開発等により生息環境が圧迫されているとみなされていることから, 環境省の最新レッドデータブックには絶滅危惧II類としての掲載があり(亀澤・丸



図1. ギョウトクコムズギワゴミムシ(宮城県名取川産, スケールは1 mm).